		Mina	mi Kyus	hu Univ	ersi [.]	ty S	Syllabus			
シラバス年度	2022年度		キャンパス	都城キャン			開設学科		子と	ごも教育学科
科目名称	子ども教育プレー	ž E		•				授業	形態	講義
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	24	Į.	実務経験教	員		アクティブ ラーニング
担当教員名	遠藤 晃									
授業概要	2年次末には、 ミ形式とは何を研究 機付けが低研下で究外 「自分はですが、 「はないでする。 をできる。	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼ 形式となる (「子ども教育でミエリ)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」 自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動 付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に ごく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科 はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すこを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上でいくためのレディネス(=準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門で	どミを前年	度に、子ども教	育ゼミIを次年月	度に履修す	ること	•			
授業の進め方 と方法	【前半】学習技行 確認問題等)の打	析に関する 是出を求め 析および研	解説及び課題提る。 究プロセスに関	する課題の評価及	(受講生全	È員)」	で行う。 毎回、打			レポート(感想、質問、、前半(解説・課題提
授業計画 【第1回】	学生生活(1) オリエンテー:	ション、学	:生生活指導、履	修指導						
授業計画 【第2回】	学生生活(2) 「自分の研究句	頂域及び所	属研究室を決め	る」プロセスのst	全体像とそ	このため	に必要な研究能力	をつかも	` .	
授業計画 【第3回】	読解(1)解説・ 読解の意義につ		し、専門的な文	献(論文レベル)	の読解え	くキルに	ついて理解する。			
授業計画 【第4回】	読解 (2) 実践指 課題となった?		し発表する。指	導をもとに問題点	気と改善点	き把握	する。			
授業計画 【第5回】	文章表現(1)解 アカデミック			・ルをふまえ、仮記	党検証や 事	≨象の証	明方法を理解する	•		
授業計画 【第6回】	文章表現(2)実 課題となった!		成について指導	を受け、課題との	女善の見道	通しをつ	かむ。			
授業計画 【第7回】	学生生活(3) 学生生活指導、	履修指導	ı							
授業計画 【第8回】	情報収集(1)解 情報を収集し		是示 析する方法につ	いて理解する。						
授業計画 【第9回】		情報収集(2)実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表	を会への参								
授業計画 【第11回】	プレゼンテーショ			゚レゼンテーション	ンの方法を	₹理解す	న .			

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション(1)解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等)提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

		Mina	mi Kyus	hu Univ	ersi [.]	ty S	Syllabus			
シラバス年度	2022年度		キャンパス	都城キャン			開設学科		子と	ごも教育学科
科目名称	子ども教育プレヤ	ヹミ						授業	形態	講義
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	24	Į.	実務経験教	[員		アクティブ ラーニング
担当教員名	瀬戸口 裕二									
授業概要	2年次末には、 ミ形式となりを研究 機付けが低研でで発 「自分はですがし、 「なるでは、 基づくそれらとする。 とを目的とする。	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼ形式となる (「子ども教育ゼミ I・II」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識にづく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すこを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上でいくためのレディネス(=準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門台	ゼミを前年	度に、子ども教	育ゼミ I を次年月	度に履修す	ること	•			
授業の進め方 と方法	【前半】学習技術 確認問題等)の抗	析に関する 是出を求め 析および研	解説及び課題提る。 究プロセスに関	する課題の評価及	(受講生全	È員)」	で行う。 毎回、打			レポート(感想、質問、、前半(解説・課題提
授業計画 【第1回】	学生生活(1) オリエンテー?	ション、学	:生生活指導、履	修指導						
授業計画 【第2回】	学生生活(2) 「自分の研究句	頂域及び所	属研究室を決め	る」プロセスのst	全体像とそ	たのため	に必要な研究能力	をつかも	ì.	
授業計画 【第3回】		読解(1)解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献(論文レベル)の読解スキルについて理解する。								
授業計画 【第4回】	読解(2)実践指 課題となった3		し発表する。指	導をもとに問題点	気と改善点	き把握	する。			
授業計画 【第5回】	文章表現(1)解 アカデミック			・ルをふまえ、仮記	悦検証や事	事象の証	明方法を理解する	0		
授業計画 【第6回】	文章表現(2)実 課題となったし		成について指導	を受け、課題との	女善の見道	狙しをつ	かむ。			
授業計画 【第7回】	学生生活(3) 学生生活指導、	履修指導	i							
授業計画 【第8回】	情報収集(1)解 情報を収集し動		是示 析する方法につ	いて理解する。						
授業計画 【第9回】		情報収集(2)実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表	を会への参	- д							
授業計画 【第11回】	プレゼンテーシ: 興味・関心に			゚レゼンテーション	 ンの方法を	₹理解す	る。			

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション(1)解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等)提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

		Mina	mi Kyus	hu Univ	ersi [.]	ty S	Syllabus			
シラバス年度	2022年度		キャンパス	都城キャン			開設学科		子と	ごも教育学科
科目名称	子ども教育プレイ	žĘ						授業	形態	講義
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	24	Ę.	実務経験教	. 員		アクティブ ラーニング
担当教員名	園田 博一									
授業概要	2年次末には、 ミ形式となる研究 機付けが低研ででの 場づけがの献・研究を 基づくそれらとする。 とを目的とする。	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼ 形式となる (「子ども教育ゼミ I・II」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」 自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動 付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すこを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上でいくためのレディネス(=準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門台	ざミを前年	度に、子ども教	育ゼミIを次年月	まに 履修す	ること	•			
授業の進め方 と方法	【前半】学習技術 確認問題等)の抗	特に関する 是出を求 <i>め</i> 特および研	解説及び課題提 る。 究プロセスに関	する課題の評価及	(受講生全	È員)」	で行う。 毎回、打			レポート(感想、質問、 、前半(解説・課題提
授業計画 【第1回】	学生生活(1) オリエンテー?	ション、学	生生活指導、履	修指導						
授業計画 【第2回】	学生生活(2) 「自分の研究句	頁域及び所	「属研究室を決め	る」プロセスの슄	全体像とそ	このため	に必要な研究能力	をつかも	` .	
授業計画 【第3回】	読解(1)解説・ 読解の意義につ		は、専門的な文	献(論文レベル)	の読解え	くキルに	ついて理解する。			
授業計画 【第4回】	読解 (2) 実践指 課題となった?]し発表する。指	導をもとに問題点	えきの善点	き把握	する。			
授業計画 【第5回】	文章表現(1)解 アカデミック			ルをふまえ、仮記	党検証や事	事象の証	明方法を理解する	0		
授業計画 【第6回】	文章表現(2)実 課題となったし		F成について指導 ・ が について指導	を受け、課題との	対善の見通	狙しをつ	かむ。			
授業計画 【第7回】	学生生活(3) 学生生活指導、	履修指導	i .							
授業計画 【第8回】	情報収集(1)解 情報を収集し動		是示 ⁺析する方法につ	いて理解する。						
授業計画 【第9回】	情報収集(2)実 課題となった¶		分析について指	導を受け、課題と	 : 改善へ <i>0</i>)見通し	をつかむ。			
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表	長会への参								
授業計画 【第11回】	プレゼンテーシ: 興味・関心にま			゚レゼンテーション	の方法を	理解す	న 。			

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション(1)解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等)提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

		Mina	mi Kyus	hu Univ	ersi [.]	ty S	Syllabus			
シラバス年度	2022年度	開講	キャンパス	都城キャン	パス		開設学科		子と	ごも教育学科
科目名称	子ども教育プレヤ	ヹ゙゠		•				授業	形態	講義
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	24	Ŧ.	実務経験教	.員		アクティブ ラーニング
担当教員名	早川 純子									
授業概要	2年次末には、 ミ形式となる研究 機付けが低研ででの 場づけがの献・研究を 基づくそれらとする。 とを目的とする。	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼ 形式となる (「子ども教育でミ I・II」)。 以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識にづく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すこを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上でいくためのレディネス(=準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門や	ざミを前年	度に、子ども教	ā有ゼミΙを次年月	まに履修す	ること	0			
授業の進め方 と方法	【前半】学習技術 確認問題等)の抗	特に関する 是出を求 <i>め</i> 特および研	解説及び課題提 る。 究プロセスに関	する課題の評価及	(受講生全	È員)」	で行う。 毎回、持			レポート(感想、質問、 、前半(解説・課題提
授業計画 【第1回】	学生生活(1) オリエンテー?	ション、学	生生活指導、履	修指導						
授業計画 【第2回】	学生生活(2) 「自分の研究句	頁域及び所	「属研究室を決め	る」プロセスのst	全体像とそ	このため	に必要な研究能力	をつかも	` .	
授業計画 【第3回】		読解(1)解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献(論文レベル)の読解スキルについて理解する。								
授業計画 【第4回】	読解 (2) 実践指 課題となった?]し発表する。指	導をもとに問題点	まと改善点	を把握	する。			
授業計画 【第5回】	文章表現(1)解 アカデミック			・ルをふまえ、仮記	悦検証や事	事象の証	明方法を理解する	•		
授業計画 【第6回】	文章表現(2)実 課題となったし		·成について指導	を受け、課題との	女善の見追	直しをつ	かむ。			
授業計画 【第7回】	学生生活(3) 学生生活指導、	履修指導	I							
授業計画 【第8回】	情報収集(1)解 情報を収集しま		是示 ∤析する方法につ	いて理解する。						
授業計画 【第9回】	情報収集(2)実 課題となった¶		分析について指	導を受け、課題と	 : 改善へ <i>0</i>)見通し	をつかむ。			
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表	長会への参								
授業計画 【第11回】	プレゼンテーシ: 興味・関心にま			゚レゼンテーション	 ンの方法を	理解す	る。			

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション(1)解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等)提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

		Mina	mi Kyus	hu Univ	ersi [.]	ty S	Syllabus			
シラバス年度	2022年度		キャンパス	都城キャン			開設学科		子と	ごも教育学科
科目名称	子ども教育プレー	ヹミ						授業	形態	講義
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	23	Ŧ.	実務経験教	.員		アクティブ ラーニング
担当教員名	宮内 孝									
授業概要	2年次末には、 ミ形式とは何を研究 機付けが低研下で究外 「自分はですが、 「はないでする。 をできる。	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼ 形式となる (子ども教育でミ I I)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」 自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動 付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識にごく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すこを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上でいくためのレディネス(=準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門も	ゼミを前年	度に、子ども教	育ゼミIを次年月	度に履修す	トること	٥			
授業の進め方 と方法	【前半】学習技行 確認問題等)の打	析に関する 是出を求 <i>め</i> 析および研	解説及び課題提る。 る。 「究プロセスに関	する課題の評価及	(受講生会	≧員)」	で行う。 毎回、打			レポート(感想、質問、 、前半(解説・課題提
授業計画 【第1回】	学生生活(1) オリエンテー:	ション、学	2生生活指導、履	修指導						
授業計画 【第2回】	学生生活(2) 「自分の研究句	頂域及び所	属研究室を決め	る」プロセスのst	全体像とそ	このため	に必要な研究能力	をつかも	` .	
授業計画 【第3回】	読解(1)解説・ 読解の意義につ		とし、専門的な文	献(論文レベル)	の読解え	スキルに	ついて理解する。			
授業計画 【第4回】	読解 (2) 実践指 課題となった?		し発表する。指	導をもとに問題点	点と改善点	まを把握	する。			
授業計画 【第5回】	文章表現(1)解 アカデミック			・ルをふまえ、仮記	党検証や 乳	≨象の証	明方法を理解する	o		
授業計画 【第6回】	文章表現(2)実 課題となった!		:成について指導	を受け、課題との	女善の見道	通しをつ	かむ。			
授業計画 【第7回】	学生生活(3) 学生生活指導、	履修指導	ī							
授業計画 【第8回】	情報収集(1)解 情報を収集し3		是示 ・析する方法につ	いて理解する。						
授業計画 【第9回】	情報収集(2)実 課題となった¶		分析について指	導を受け、課題と	 : 改善へ <i>0</i>)見通し	をつかむ。			
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表	表会への参	ad							
授業計画 【第11回】	プレゼンテーショ			゚レゼンテーション	 ンの方法を	・理解す	る。			

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション(1)解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等)提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

		Mina	mi Kyus	hu Univ	ersi [.]	ty S	Syllabus			
シラバス年度	2022年度		キャンパス	都城キャン			開設学科		子と	ごも教育学科
科目名称	子ども教育プレイ	žĘ						授業	形態	講義
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	24	Į.	実務経験教	.員		アクティブ ラーニング
担当教員名	若宮 邦彦									
授業概要	2年次末には、 ミ形式となる研究 機付けが低研ででの 場づけがの献・研究を 基づくそれらとする。 とを目的とする。	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼ 形式となる (「子ども教育でミエリ)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」 自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動 付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識にごく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すこを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上でいくためのレディネス(=準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門台	ざミを前年	度に、子ども教	育ゼミIを次年月	まに 履修す	ること	۰			
授業の進め方 と方法	【前半】学習技術 確認問題等)の抗	トに関する 是出を求め トおよび研	解説及び課題提 る。 究プロセスに関	する課題の評価及	(受講生슄	È員)」	で行う。 毎回、打			レポート(感想、質問、 、前半(解説・課題提
授業計画 【第1回】	学生生活(1) オリエンテー?	ション、学	·生生活指導、履	修指導						
授業計画 【第2回】	学生生活(2) 「自分の研究句	頁域及び所	「属研究室を決め	る」プロセスの≦	全体像とそ	うっため	に必要な研究能力	をつかも	٥:	
授業計画 【第3回】		読解(1)解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献(論文レベル)の読解スキルについて理解する。								
授業計画 【第4回】	読解 (2) 実践指 課題となった?]し発表する。指	導をもとに問題点	えと改善点	を把握	する。			
授業計画 【第5回】	文章表現(1)解 アカデミック			ルをふまえ、仮記	兌検証や事	事象の証	明方法を理解する	o		
授業計画 【第6回】	文章表現(2)実 課題となったし		-成について指導	を受け、課題との	対善の見過	狙しをつ	かむ。			
授業計画 【第7回】	学生生活(3) 学生生活指導、	履修指導	Ĭ.							
授業計画 【第8回】	情報収集(1)解 情報を収集しま		是示 ∤析する方法につ	いて理解する。						
授業計画 【第9回】	情報収集(2)実 課題となった¶		分析について指	導を受け、課題と	: 改善へ <i>0</i>	見通し	をつかむ。			
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表	長会への参								
授業計画 【第11回】	プレゼンテーシ: 興味・関心にま			゚レゼンテーション	の方法を	理解す	ర .			

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション(1)解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等)提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

		Mina	mi Kyus	hu Univ	ersi [.]	ty S	Syllabus			
シラバス年度	2022年度		キャンパス	都城キャン			開設学科		子と	ごも教育学科
科目名称	子ども教育プレイ	ž E		•				授業	形態	講義
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	24	Į.	実務経験教	[員		アクティブ ラーニング
担当教員名	酒井 喜八郎									
授業概要	2年次末には、 ミ形式となりを研究 機付けが低研でで発 「自分はですがし、 「なるでは、 基づくそれらとする。 とを目的とする。	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくぜミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うぜ 形式となる(「子ども教育ゼミI・I」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」 自分は何を研究したいのか」を見出さないままぜミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ぜミに馴染めない』と動 付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に づく文献・資料・論文を誘解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科 はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すこ を目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上 ていくためのレディネス(=準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門台	ゼミを前年	度に、子ども教	育ゼミIを次年月	度に履修す	ること	•			
授業の進め方 と方法	【前半】学習技術 確認問題等)の抗	析に関する 是出を求め 析および研	解説及び課題提る。 る。 「究プロセスに関	する課題の評価及	(受講生全	È員)」	で行う。 毎回、打			レポート(感想、質問、 、前半(解説・課題提
授業計画 【第1回】	学生生活(1) オリエンテー?	ション、学	:生生活指導、履	修指導						
授業計画 【第2回】	学生生活(2) 「自分の研究句	頂域及び所	属研究室を決め	る」プロセスのst	全体像とそ	たのため	に必要な研究能力	をつかも	` .	
授業計画 【第3回】	読解(1)解説・ 読解の意義につ		とし、専門的な文	献(論文レベル)	の読解え	くキルに	ついて理解する。			
授業計画 【第4回】	読解(2)実践指 課題となった3		し発表する。指	導をもとに問題点	気と改善点	き把握	する。			
授業計画 【第5回】	文章表現(1)解 アカデミック			・ルをふまえ、仮記	悦検証や事	事象の証	明方法を理解する	0		
授業計画 【第6回】	文章表現(2)実 課題となったし		:成について指導	を受け、課題との	女善の見道	狙しをつ	かむ。			
授業計画 【第7回】	学生生活(3) 学生生活指導、	履修指導	Į.							
授業計画 【第8回】	情報収集(1)解 情報を収集し動		是示 析する方法につ	いて理解する。						
授業計画 【第9回】	情報収集(2)実 課題となった¶		分析について指	導を受け、課題と	≤改善への)見通し	をつかむ。			
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表	を会への参	ad							
授業計画 【第11回】	プレゼンテーシ: 興味・関心に			゚レゼンテーション	 ンの方法を	₹理解す	る。			

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション(1)解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等)提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

		Mina	mi Kyus	hu Unive	ersit	y S	Syllabus				
シラバス年度	2022年度	開講:	キャンパス	都城キャンパ	パス		開設学科		子と	も教育学科	
科目名称	子ども教育プレー	ヹ゙゠						授業	形態	講義	
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	Ξ	実務経験教	員		アクティブ ラーニング	0
担当教員名	本田 和也										
授業概要	2年次とはは、(まではいるでは、 を対しているでする。 を対しているでする。 を対しているでする。 を対しているできる。 を対しているできる。 を対しているできる。	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼ 形式となる (「子ども教育ゼミ I・II」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」 自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動き付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識にごく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すこを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上でいくためのレディネス(=準備状態)を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門で	ゼミを前年	度に、子ども教	「育ゼミIを次年度	まに 履修す	ること					
授業の進め方 と方法	【前半】学習技術 確認問題等)の打	析に関する 是出を求め 析および研	解説及び課題提る。 究プロセスに関]する課題の評価及	(受講生全	員)」) となる。 で行う。 毎回、‡ 『形式 (ゼミ単位)				
授業計画 【第1回】	学生生活(1) オリエンテー:	ション、学	:生生活指導、履	修指導							
授業計画 【第2回】	学生生活(2) 「自分の研究f	頂域及び所	属研究室を決め	る」プロセスの全	È体像とそ	のため	に必要な研究能力	をつかも) o		
授業計画 【第3回】	読解(1)解説・ 読解の意義に「		し、専門的な文	献(論文レベル)	の読解ス	キルに	こついて理解する。				
授業計画 【第4回】	読解(2)実践指 課題となった?		し発表する。指	(導をもとに問題点	えと改善点	を把握	する。				
授業計画 【第5回】	文章表現(1)解 アカデミック		-	・ルをふまえ、仮記	(検証や事	象の証	明方法を理解する	0			
授業計画 【第6回】	文章表現(2)実 課題となった!		成について指導	を受け、課題とむ	෭善の見通	しをつ	かむ。				
授業計画 【第7回】	学生生活(3) 学生生活指導、	履修指導	·								
授業計画 【第8回】	情報収集(1)解 情報を収集し3		是示 析する方法につ	いて理解する。							
授業計画 【第9回】	情報収集(2)実 課題となった¶		分析について指	:導を受け、課題と	: 改善への	見通し	. をつかむ。				
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発	長会への参	חל								
授業計画 【第11回】	プレゼンテーショ			゚゚レゼンテーション	,の方法を	理解す	⁻ 8.				

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション(1)解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等)提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

		Mina	mi Kyus	shu Unive	ersi	ty S	Syllabus				
シラバス年度	2022年度	開講:	キャンパス	都城キャンパ	パス		開設学科		子と	も教育学科	
科目名称	子ども教育プレー	ヹ゙゠						授業	形態	講義	
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	24	Ę	実務経験教	員		アクティブ ラーニング	0
担当教員名	福富隆志										
授業概要	2年次末には、 (年文とはは、 (年式とは何をでし、 (年式分けがののでし、 (年では、) (年では、) (年では、) (日本では) (日本では) (日本で) (日本では) (日本で) (日本で) (日本) (本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼールで表となる(「子ども教育ゼミI・II」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」 自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動き付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識にごく文献・資料・論文を誘解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上でいくためのレディネス(=準備状態)を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門で	どミを前年	度に、子ども教	「育ゼミ I を次年度	まに履修す	ること	. 0				
授業の進め方 と方法	【前半】学習技行 確認問題等)の	析に関する 是出を求め 析および研	解説及び課題提る。 究プロセスに関]する課題の評価及	(受講生全	員)」) となる。 で行う。 毎回、‡ 『形式 (ゼミ単位)				
授業計画 【第1回】	学生生活(1) オリエンテー:	ション、学	:生生活指導、履	修指導							
授業計画 【第2回】	学生生活 (2) 「自分の研究行	頃域及び所	属研究室を決め)る」プロセスのá	≧体像とそ	っため	に必要な研究能力	をつかも	ì.		
授業計画 【第3回】	読解(1)解説・ 読解の意義に		し、専門的な文	献(論文レベル)	の読解ス	キルに	こついて理解する。				
授業計画 【第4回】	読解(2)実践指 課題となった)		し発表する。指	:導をもとに問題点	まと改善点	き把握	する。				
授業計画 【第5回】	文章表現 (1) 解 アカデミック		-	・ルをふまえ、仮記	党検証や事	象の証	明方法を理解する	0			
授業計画 【第6回】	文章表現(2) 実 課題となった		成について指導	を受け、課題との	対善の見通	しをつ	かむ。				
授業計画 【第7回】	学生生活(3) 学生生活指導、	履修指導	i								
授業計画 【第8回】	情報収集(1)解 情報を収集し3		是示 析する方法につ	いて理解する。							
授業計画 【第9回】	情報収集(2) 実 課題となった(分析について指	:導を受け、課題と	: 改善への)見通し	. をつかむ 。				
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発	長会への参	חל								
授業計画 【第11回】	プレゼンテーシ			゚レゼンテーション	の方法を	理解す	- გ.				

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション(1)解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等)提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

		Mina	mi Kyus	hu Univ	ersi [.]	ty S	Syllabus			
シラバス年度	2022年度		キャンパス	都城キャン			開設学科		子と	ごも教育学科
科目名称	子ども教育プレイ	ヹミ						授業	形態	講義
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	24	Į.	実務経験教	. 員		アクティブ ラーニング
担当教員名	藤本 朋美									
授業概要	2年次末には、 ミ形式となりを研究 機付けが低研でで発 「自分はですがし、 「なるでは、 基づくそれらとする。 とを目的とする。	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼ形式となる(「子ども教育ゼミI・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識にづく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すこを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上ていくためのレディネス(=準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門台	ゼミを前年	度に、子ども教	育ゼミIを次年月	度に履修す	ること	•			
授業の進め方 と方法	【前半】学習技術 確認問題等)の抗	析に関する 是出を求め 析および研	解説及び課題提る。 「究プロセスに関	する課題の評価及	(受講生全	È員)」	で行う。 毎回、打			レポート(感想、質問、 、前半(解説・課題提
授業計画 【第1回】	学生生活(1) オリエンテー?	ション、学	:生生活指導、履	修指導						
授業計画 【第2回】	学生生活(2) 「自分の研究句	頂域及び所	属研究室を決め	る」プロセスの≦	全体像とそ	うっため	に必要な研究能力	をつかも	٥:	
授業計画 【第3回】	読解(1)解説・ 読解の意義につ		とし、専門的な文	献(論文レベル)	の読解え	くキルに	ついて理解する。			
授業計画 【第4回】	読解(2)実践指 課題となった3		し発表する。指	導をもとに問題点	気と改善点	き把握	する。			
授業計画 【第5回】	文章表現(1)解 アカデミック			ルをふまえ、仮記	党検証や 事	≨象の証	明方法を理解する	0		
授業計画 【第6回】	文章表現(2)実 課題となったし		成について指導	を受け、課題とは	女善の見道	通しをつ	かむ。			
授業計画 【第7回】	学生生活(3) 学生生活指導、	履修指導	I.							
授業計画 【第8回】	情報収集(1)解 情報を収集し動		是示 ∵析する方法につ	いて理解する。						
授業計画 【第9回】	情報収集(2)実 課題となった¶		分析について指	導を受け、課題と	 : 改善へ <i>0</i>)見通し	をつかむ。			
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表	長会への参								
授業計画 【第11回】	プレゼンテーシ: 興味・関心に			゚レゼンテーション	 ンの方法を	₹理解す	る。			

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション(1)解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等)提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

		Mina	mi Kyus	hu Univ	ersi [.]	ty S	Syllabus			
シラバス年度	2022年度		キャンパス	都城キャン			開設学科		子と	ごも教育学科
科目名称	子ども教育プレー	ヹミ		•				授業	形態	講義
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	24	Ę.	実務経験教	. 員		アクティブ ラーニング
担当教員名	野村宗嗣									•
授業概要	2年次末には、 ミ形式とは何を研究 機付けが低研下で究外 「自分はですが、 「はないでする。 をできる。	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくぜミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うぜ 形式となる(「子ども教育ゼミI・I」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」 自分は何を研究したいのか」を見出さないままぜミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動 付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科 はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すこを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上 ていくためのレディネス(=準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門	ゼミを前年	度に、子ども教	育ゼミIを次年月	まに 履修す	ること	•			
授業の進め方 と方法	【前半】学習技行 確認問題等)の打	析に関する 是出を求め 析および研	解説及び課題提る。 「究プロセスに関	する課題の評価及	(受講生슄	È員)」	で行う。 毎回、打			レポート(感想、質問、 、前半(解説・課題提
授業計画 【第1回】	学生生活(1) オリエンテー:	ション、学	:生生活指導、履	修指導						
授業計画 【第2回】	学生生活(2) 「自分の研究を	頂域及び所	属研究室を決め	る」プロセスのst	全体像とそ	たのため	に必要な研究能力	をつかも	` .	
授業計画 【第3回】		読解(1)解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献(論文レベル)の読解スキルについて理解する。								
授業計画 【第4回】	読解 (2) 実践指 課題となった?		し発表する。指	導をもとに問題点	えきの善点	き把握	する。			
授業計画 【第5回】	文章表現(1)解 アカデミック			・ルをふまえ、仮記	党検証や事	≨象の証	明方法を理解する	0		
授業計画 【第6回】	文章表現(2)実 課題となった!		成について指導	を受け、課題とは	対善の見道	通しをつ	かむ。			
授業計画 【第7回】	学生生活(3) 学生生活指導、	履修指導	ī							
授業計画 【第8回】	情報収集(1)解 情報を収集し3		是示 析する方法につ	いて理解する。						
授業計画 【第9回】	情報収集(2)実 課題となった¶		分析について指	導を受け、課題と	: 改善への)見通し	をつかむ。			
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表	長会への参	םל:							
授業計画 【第11回】	プレゼンテーショ興味・関心に			゚レゼンテーション	の方法を	理解す	る。			

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション(1)解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等)提出物及び受講態度から判断する(30点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回4点×5回=20点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

		Mina	mi Kyus	hu Univ	ersi	ty S	Syllabus			
シラバス年度	2022年度		キャンパス	都城キャン			開設学科		子と	ごも教育学科
科目名称	子ども教育プレイ	žĘ						授業	形態	講義
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	23	Į.	実務経験教	員		アクティブ ラーニング
担当教員名	山田 裕司									•
授業概要	2年次末には、 ミ形式となる研究 機付けが低研ででの 場づけがの献・研究を 基づくそれらとする。 とを目的とする。	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくぜミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うぜ形式となる(「子ども教育ゼミI・I」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」自分は何を研究したいのか」を見出さないままぜミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識にづく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すこを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上ていくためのレディネス(=準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門台	ヹミを前年	度に、子ども教	育ゼミIを次年原	度に履修す	ること	•			
授業の進め方 と方法	【前半】学習技術 確認問題等)の抗	特に関する 是出を求 <i>め</i> 特および研	解説及び課題提 る。 究プロセスに関	する課題の評価及	(受講生会	È員)」	で行う。 毎回、打			レポート(感想、質問、 、前半(解説・課題提
授業計画 【第1回】	学生生活(1) オリエンテー?	ション、学	生生活指導、履	修指導						
授業計画 【第2回】	学生生活(2) 「自分の研究句	頁域及び所	「属研究室を決め	る」プロセスのst	全体像とそ	たのため	に必要な研究能力	をつかも	` .	
授業計画 【第3回】	読解(1)解説・ 読解の意義につ		『し、専門的な文	献(論文レベル)	の読解え	くキルに	ついて理解する。			
授業計画 【第4回】	読解 (2) 実践指 課題となった?]し発表する。指	導をもとに問題点	気と改善点	き把握	する。			
授業計画 【第5回】	文章表現(1)解 アカデミック			ルをふまえ、仮記	党検証や 事	≨象の証	明方法を理解する	•		
授業計画 【第6回】	文章表現(2)実 課題となったし		F成について指導	を受け、課題とは	女善の見道	通しをつ	かむ。			
授業計画 【第7回】	学生生活(3) 学生生活指導、	履修指導	I							
授業計画 【第8回】	情報収集(1)解 情報を収集し動		是示 ⁺析する方法につ	いて理解する。						
授業計画 【第9回】	情報収集(2)実 課題となった¶		分析について指	導を受け、課題と	: 改善への	列通し	をつかむ。			
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表	長会への参	·····································							
授業計画 【第11回】	プレゼンテーシ: 興味・関心にま			゚レゼンテーション	 ンの方法を	₹理解す	<u> </u>			

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション(1)解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等)提出物及び受講態度から判断する(30点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回4点×5回=20点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	